

IAUD Newsletter vol.3 第2号 (2010年5月号) 目次

1. 特集 : *towards2010* 会議の成功を祈念して
～「浜松まつり」で国際 UD 会議開催記念凧が大空に～ 1
2. “色覚の多様性”に配慮する社会づくりを目指して
～リコーグループのカラーユニバーサルデザイン活動への取り組み～ 5
3. CaseStudy : 移動空間プロジェクト
「JR 静岡駅～新静岡駅周辺移動情報シームレス化研究」について 14
4. 世界の UD 動向 : 「INNOVATION FOR ALL 2010」開催、【UD2010 ウォッチング】 20

会議開催まで半年を切り、準備もますますヒートアップしてきました。開催地の浜松市では5月3～5日、住民をあげての伝統行事「浜松まつり」が行われました。最大の出し物は町の凧印が描かれた一辺2メートルを越える大凧を揚げる「凧揚げ合戦」と、夜の市街を彩る豪華絢爛な「御殿屋台引き回し」です。浜松市での国際 UD 会議開催を記念し IAUD マークと会議名称・日程のいった大凧が5月の空に舞い揚げられました。今月の特集はその会場の様子を中心にお伝えします。

特集 : *towards2010* 会議の成功を祈念して ～「浜松まつり」で国際 UD 会議開催記念凧が大空に～



「浜松まつり」は400年以上の歴史のある伝統行事で、毎年5月初め、浜松全市民をあげて街全体がひとつになって盛り上がる一大イベントです。クライマックスは何と言っても174の町内がそれぞれ一辺2メートルを越える正方形の大凧を揚げ、互いの糸を切り合う「凧揚げ合戦」と、夜の市街を83の各町が華麗さを競うように練り歩く「御殿屋台引き回し」です。

「凧揚げ合戦」はゴールデンウィークの後半、5月3日～5日の3日間にわたり遠州灘を臨む中田島凧揚げ会場で開催されました。一番の見せ場である糸切り合戦は4日・5日に行われますが、まつり初日の3日は初子の誕生を祝い町衆総出で「初凧」揚げが行われます。これらに交じて「国際ユニヴァーサルデザイン会議開催記念凧」（以下「記念凧」）を浜松市のユニバーサル社会男女共同参加推進課の富田課長をはじめ課の方々と共に揚げるため、IAUDから成川理事長、川原専務理事、川原事務局長と取材のため情報交流センターから蔦谷の4名が参加しました。



5月にしては汗ばむくらいの天候に恵まれ、中田島海岸の凧揚げ会場に開会1時間前の午前10時に到着。街中から続々と人が集まるなか、凧揚げの士気を高めるためのラッパと太鼓の音も徐々に力がこもり、凧揚げ本部前で待機するわれわれもいやがうえにも気分が高まります。本部の前では各町の大旗が集合して、開会宣言を今や遅しと待ち構えます。



いよいよ開会！

浜松まつり本部会長でもある鈴木浜松市長の開会宣言と同時に上がる花火を合図に、各町の大凧が次々と大空へと舞い上がり、本部前では氣勢をあげるラッパや太鼓とともに旗がうち振られ、会場の雰囲気は一気に最高潮に達します。

記念凧揚げには開会宣言を終えた鈴木市長も参加されました。揚げる順番を待つ間に、地元メディアの取材もあり、また、浜松市と米ロチェスター市の姉妹都市締結に尽力され、同市のやらまいか大使を務める秋山俊雄ロチェスター大名誉教授夫妻も一緒に記念凧をご覧いただきました。



写真の左から2番目が鈴木市長、右から2番目・3番目が秋山名誉教授夫妻

浜松凧の大きさは2帖から10帖まであり、凧揚げ合戦には4帖から6帖が最適とされているそうですが、今回の記念凧は6帖の大きさで2.9m四方の大凧です。凧には「糸目」と呼ばれる凧糸と本体をつなぎ、コントロールするため重要な役割を果たす糸が30本つけられています。それはまるで多くの人の協力により準備・運営される国際会議を象徴しているかのようです。



この糸目付けの作業が4月24日に凧揚げ会場そばの浜松まつり会館で開催されました(右下写真)。この糸目付けは浜松市の市章凧と同時に浜松市関係者約50名が参加して行われました。



いよいよ記念凧を揚げる順番が回ってきました。いつもなら遠州のからっ風と呼ばれる強い風が吹く地域なのですが、この日はめずらしく穏やかな天候で微風状態、凧糸と糸目をしっかり結わえつけ、しばらく良い風がくるのを待ちます。まつり本部の凧揚部員の皆さんもかなり苦勞されたようでしたが、そこは長年の勘と経験で、無事、記念凧は五月晴れの青空に揚がりました。



会場では車いすで観覧される方や海外から来られた方の姿も多く見かけ、浜松市の国際性や取り組みの一端が感じられる場面もありました。10月末から開催される国際UD会議の成功を願いつつ会場を後にしました。



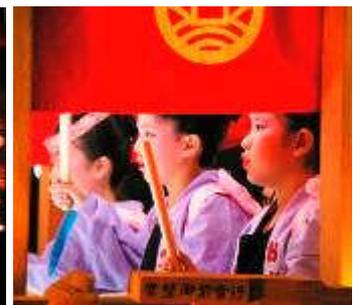
記念凧は国際会議会場に展示の予定

今回揚げた記念凧は、国際会議まで保管しておき会場に展示することを検討していますので、楽しみにお待ちください。



豪華絢爛「御殿屋台引き回し」も圧巻！

「浜松まつり」の夜はガラリと趣が変わり、見事な彫刻を施した83か町の御殿屋台が提灯の明かりに浮かび上がり、お囃子の鳴り物の音とともに浜松の街を幻想的に彩っていました。



“色覚の多様性”に配慮する社会づくりを目指して ～リコーグループのカラーユニバーサルデザイン活動への取り組み～

株式会社リコー
CSR室
シニアスペシャリスト
松田 康宏

1. はじめに

リコーグループは、デジタル複合機やプリンターなどの画像ソリューション分野の関連機器・サービスを主な事業領域としています。近年、情報化社会の進展とともに、情報機器の高機能化や多機能化が急速に進み、安心・安全で誰にでも使いやすい商品づくりがより一層求められています。リコーの創業は1936年で、創業の精神は三愛精神といい、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」です。また、現在の経営理念では、「私たちの使命：人と情報のかかわりの中で、世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、提供し続ける」、「私たちの目標：信頼と魅力の世界企業」と掲げています。情報化社会の中で、持続的な価値を提供することにより、お客様の信頼に応え続けることをモットーにしています。

■三愛精神



■創業者 市村清



2. 会社概要

【株式会社リコー】

2009年3月末時点

設立：1936年2月6日

資本金：135,364百万円

代表取締役 会長執行役員：桜井正光

代表取締役 社長執行役員：近藤史朗

本社事業所：東京都中央区銀座8-13-1 リコービル

【リコーグループの概要】

グループ企業数：311社（国内：77社、海外234社）

グループ従業員数：108,477名（国内：40,865名、海外：67,612名）

【事業内容】

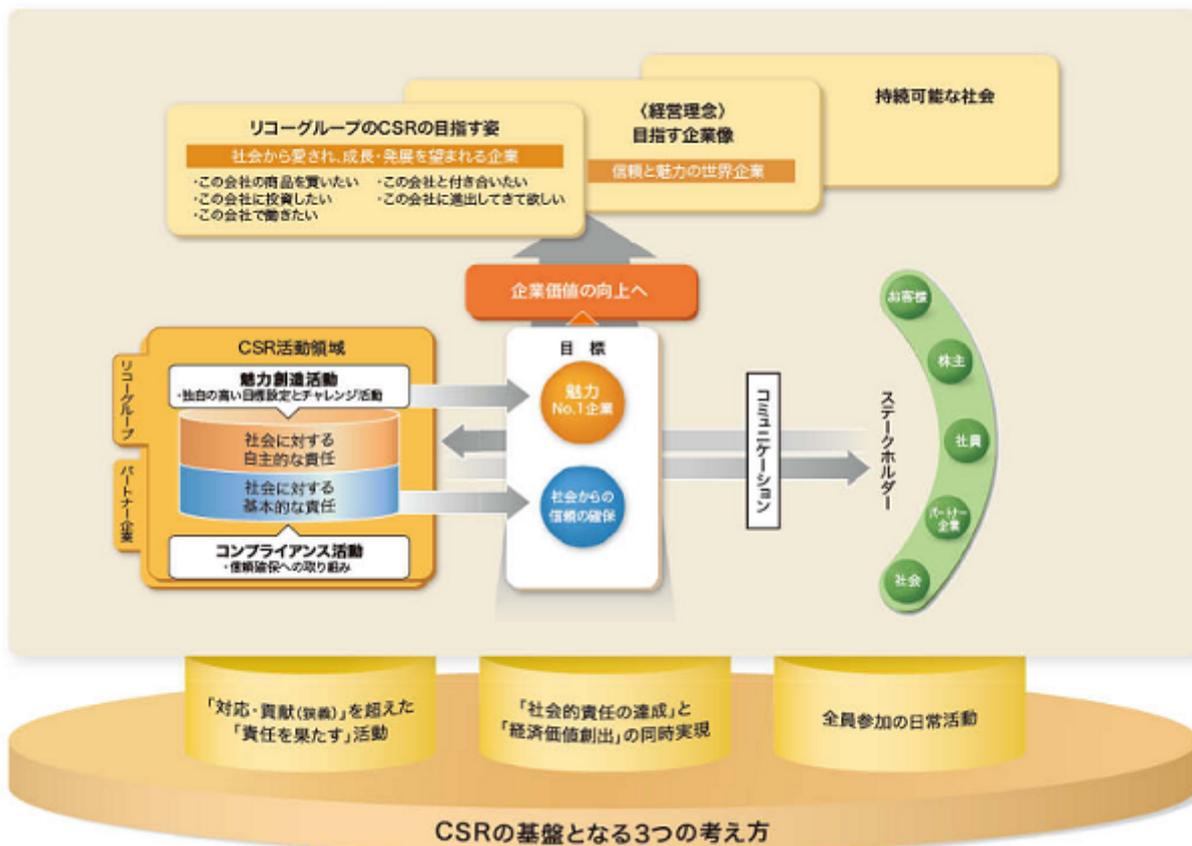
画像ソリューション分野：デジタル複写機、プリンター、ネットワーク機器、
関連ソフトなどの販売、サービス、サポート

産業分野：サーマルメディア、光学機器、半導体、電装ユニット、計量機など

その他分野：デジタルカメラなど

3. リコーグループのCSRの考え方とフレームワーク

リコーグループでは、CSRの基盤となる3つの考え方（①対応・貢献（狭義）を越えた責任を果たす活動、②社会的責任の達成と経済価値創出の同時実現、③全員参加の日常活動）をベースに、「社会から愛され、成長・発展を望まれる企業」の実現、さらに持続可能な社会づくりを目指してCSR活動に取り組んでいます。



4. 3つの価値をお客様に提供し続けるリコーバリュー

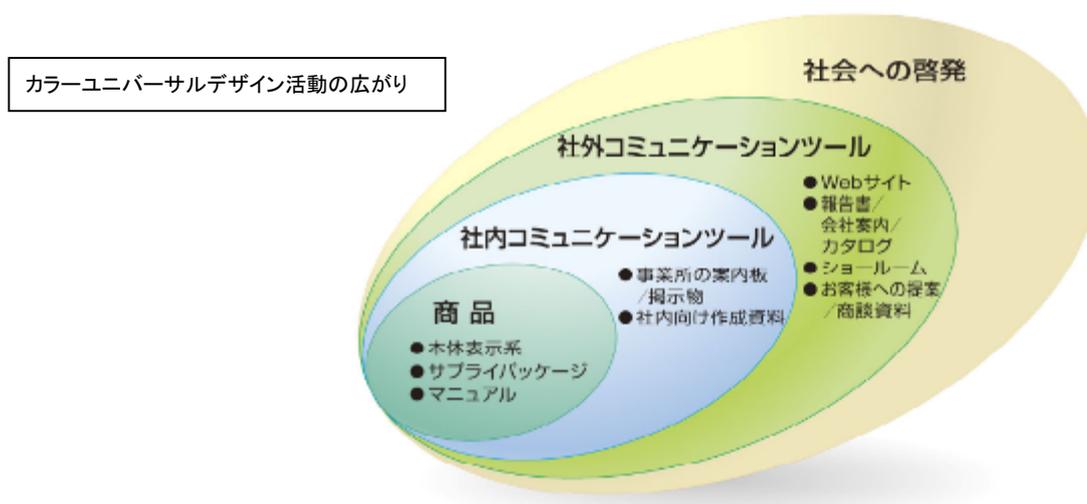
リコーグループは、商品・サービスの提供を通して、お客様自身が新たな価値を創造できるようにリコーバリューという3つの価値を提供しています。カラーユニバーサルデザイン活動は、このリコーバリューの「人にやさしい」を実現するテーマのひとつです。



5. リコーグループのカラーユニバーサルデザイン活動

リコーは、業界に先駆けてオフィスドキュメントの「モノクロからカラーへの変換」を推進しました。カラー複合機やカラープリンターを積極的に市場に提供し、情報をより豊かに伝える色の効用を十分に享受・活用していただくことを事業活動の柱としています。しかし一方で、人間の色覚には多様性があり、カラー化の促進でお困りになる色弱の方が多数いらっしゃることも事実です。色覚の多様性に配慮するカラーユニバーサルデザイン（CUD）活動は、まさに情報のカラー化を推進するリコーグループの社会的責務と考え、全社統一のCSRテーマとして推進しています。

既に、コピー機本体表示操作部のLEDの色や配置・画面に配慮して、どなたにとっても使いやすい商品を開発し、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）様が進めるCUD認証を業界でいち早く取得しました。現在は商品のみならずショールームや生産現場等の施設までCUDの配慮対象の範囲を広げ、カラーユニバーサルデザイン視点での改善活動を進めています。



●カラーユニバーサルデザイン活動とは・・・

多様な色覚を持つさまざまな人に配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように、利用者の視点に立つてつくるデザイン活動です。

●色覚の多様性とは・・・

人の眼の網膜には、赤・緑・青の光の波長を感じる3種類の細胞があり、このうちどれかの機能が十分に働かない状態を色弱と呼んでいます。

日本では、色弱と呼ばれる方が男性の20人に1人、女性の500人に1人の合わせて約300万人以上、世界では2億人以上いると言われています。



●色弱者の困りごと・・・

- ・ 駅などの案内板で色分けしてあっても文字を読まないとわかりづらい。
- ・ カラフルなグラフや図の区別や、凡例との対応がしにくい。
- ・ 地味な色合いの衣服を買ったつもりが派手な格好になってしまう。
- ・ 表現されている色が何色かわからず、色名が言えないことがある。
- ・ 画面や操作パネルのボタンが判別しにくい。
- ・ 電光掲示板の強調されている文字が読みづらい。
- ・ 充電等のパイロットランプの色の変化がわかりづらい。等々

＜出典：カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）＞

6. 具体的活動内容

この活動を、リコー及びグループ全体の全員参加の活動として進めるために、2008年4月より新たにスタートする第16次中期経営計画に盛り込むことを最初の目標に定め、まず展開活動プロジェクトグループ（PG）を立ち上げました。このPGは、コミュニケーション系／商品系の2つのグループで構成し、各々に対象範囲や実施レベルの決定、必要コストの算出、実施課題の抽出と解決のための検討を行い、詳細のプロジェクト計画書にまとめ上げました。

この推進計画を経営会議へ答申し、第16次中期経営計画におけるリコーグループCSR共通テーマとして活動していくことの承認を得て、執行役員会議の場にて活動の周知を行いました。この活動をしっかりと進めるためには、経営層の理解を得ることと、中期経営計画のCSRテーマにすることが大切と考えました。

【コミュニケーション系】

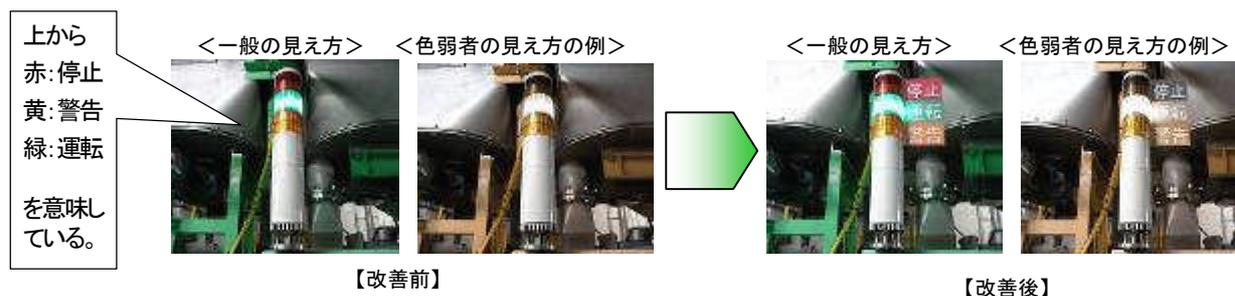
コミュニケーション系の展開活動PGは、まず生産現場の実態調査を行いました。

ここでの着眼点は、生産現場では識別管理が徹底されており、色を多用し判断のスピードを高めることが多いので、確認には最良の場所との仮説を立てました。

実際に行って見ると、色弱の方にとって見えづらい案内板や掲示物が少なくないことが分かりました。中には、安心・安全や品質に関わる案内板や掲示物もあったため、より詳細な調査と早期改善に着手することが極めて大切であるとの認識をあらたにしました。ここでの気づきは、案内板や掲示物の多くは各部門の手作り品が中心であり、コストをかけることなくすばやく改善できる点、そうでないものも工夫次第で改善していくことが可能ということです。私たちは、展開活動PGで把握したものを整理し、本格展開に入る前から計画的に改善を行いました。

シグナルタワーの警告表示

製造現場で使用しているシグナルタワーは、色毎に機能を持たせていますが、「その色の区別がつきづらい」という不具合があり文字情報（機能名）を追加しました。



また、リコーが数多く発行している印刷物についての確認を行いました。

リコーは、業界の中でもいち早くCSR報告書2005で色覚の多様性に配慮したものを制作し、(前述の)CUD認証を取得しています。その翌年からは、環境報告書やアニュアルレポート及び情報セキュリティ報告書でもCUD認証を取得し継続しています。しかし、これ以外の印刷物は改善の余地があることが分かりました。これらについては第16次中期経営計画に入り次第、段階的に対応していくことにしました。



CUD 認証取得している
報告書と会社案内

<リコーオリジナルCUDガイドラインの作成と教育>

私たちが次に取り組んだのが、リコーオリジナルCUDガイドラインの作成と教育です。その目的は、(前述の)各生産現場において、安心・安全や品質に関わる部分のみならず、あらゆる部門や会社で、自ら問題個所を発見・認識し、早期に自主改善に結びつけられるようになってもらうことです。私たちはCUD教育を実施することを決め、その教材としてリコーオリジナルのCUDガイドライン制作に着手するべく、総合デザインセンターなどリコー内の複数の専門部署のメンバーが加わった専門PTを立ち上げガイドラインを完成させました。このガイドラインは、活動の意義を社員ひとり一人が理解し、考え、行動に移してもらうことに主眼を置いています。そのために、意義を正しく理解し色覚の多様性を実感し、どのようなことに心掛けたら良いかをわかりやすく示しました。

最初のCUDキーマン教育に参加してもらったのは生産事業所と生産関連会社ですが、その後順次一般管理部門(会社)や開発部門、販売部門(会社)へと計画的に拡大させています。このガイドラインを用いてCUDキーマンへの教育を行い、CUDキーマンは学んだことを自事業所、自部門、自社に持ち帰って内部展開を進めてもらっています。

CUDキーマンが各々に内部展開する際、要望に応じて事務局より出前教育(オンサイト教育)を行ない、支援しながら進めました。

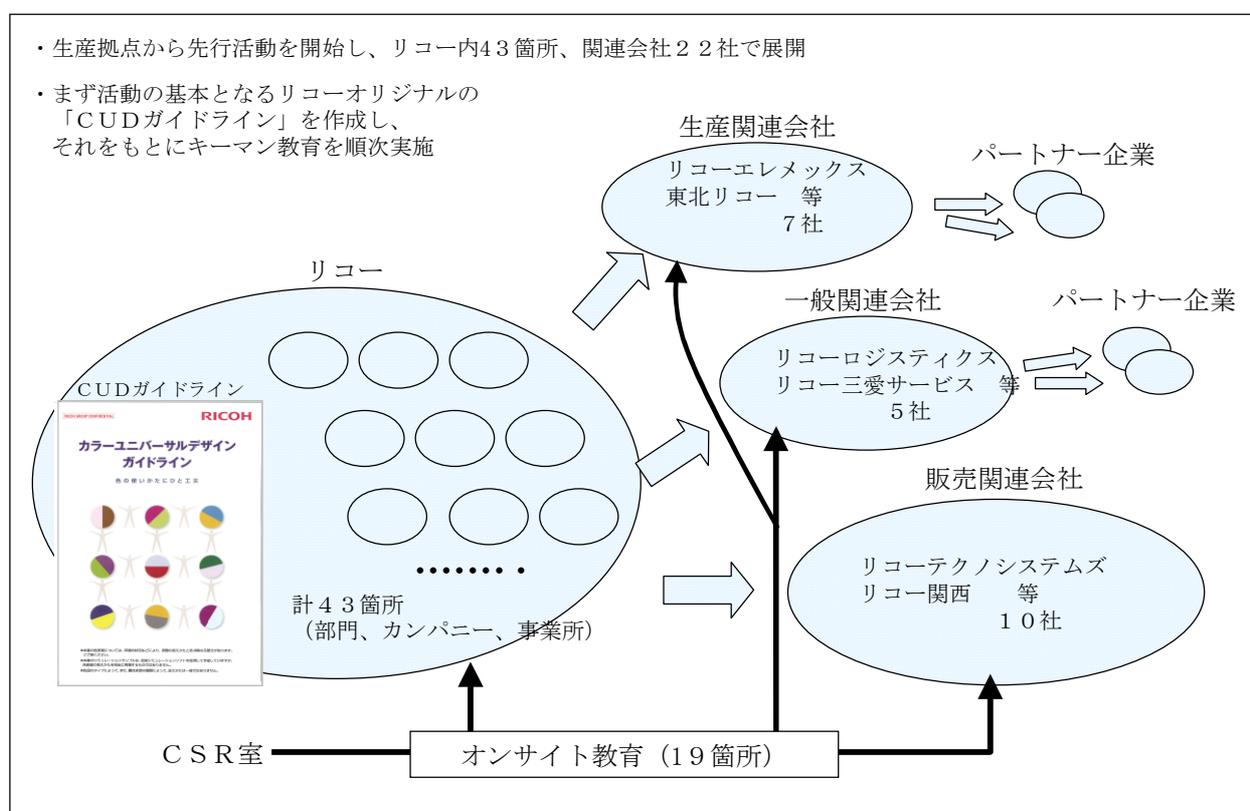
いくつかの制作物では、パートナー企業様の協力も必要であるため、制作物の発注元とも連携を取りながら進めています。パートナー企業様には、リコーグループへのカスタマイズ品の納品に留まらず、これを機会にCUDに配慮した商品づくりに取り組んでいただくことが、各企業様の企業価値向上に繋がり、社会に訴求しお役立ちしていく力となっていくことをご理解いただけるようお願いしました。

< C U D キーマン教育の内容 >

- 1) リコーグループが C U D に取り組む意義・目的の説明
- 2) リコーオリジナル C U D ガイドラインを用いて、改善点の見つけ方及び改善方法の説明
- 3) シミュレーションツール（色弱模擬フィルタや P C ソフト）を用いた実体験



キーマン教育の様子

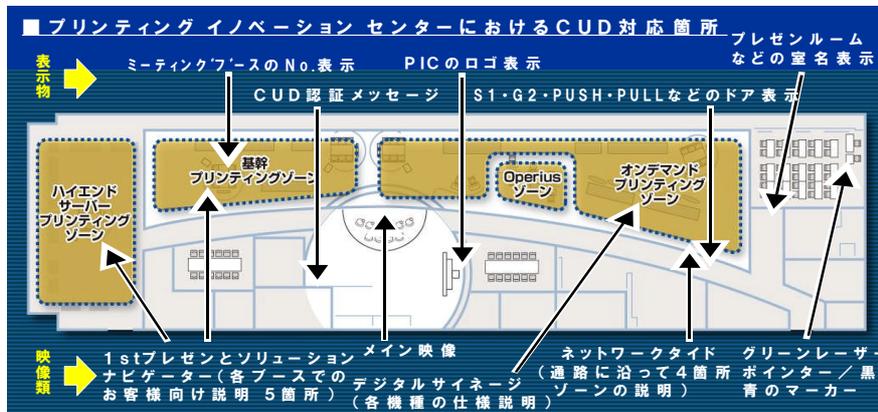


< ショールームへの反映 >

コミュニケーション系で次の目標に定めたのが、リコー銀座本社2階のショールーム改装工事です。ショールームは、不特定多数のお客がお見えになる重要な施設です。CUD化だけのためにのみコストをかけて改装工事を行うことは全く考えていませんでしたが、本来の目的で改装工事を行う時が一番のCUD配慮反映タイミングとなります。私たちは施設の最高責任者に提案し、すぐに了解をもらうことができました。直ちに施設立ち上げ専任のCUDキーマンが選ばれ、パートナー企業様へのCUD説明から、案内表示物のCUD確認と修正調整、さらには映像コンテンツのCUD確認と修正調整まで共に進めていきました。

CUD配慮に注力し、ショールーム (Printing Innovation Center 通称: P I C) のオープン間近に、新しく創設されたCUDマネジメントシステム (CUDMS) 認証を取得することを決

定し、私たちは極めて短い手番でしたが、チャレンジしたおかげで日本で第一号のCUDMS 認証取得拠点という称号を得ることができました。短い手番で準備し取得できたのも、PICにおいて我々がCUDに配慮した内容を徹底的に行うことを決めて、当初から行動していたことと、元来数多くのマネジメントシステムに取り組んでいた組織風土が成功要因であったと考えます。その後、銀座四丁目交差点にある三愛ドリームセンター内のフォトギャラリー「RING CUBE」においても、CUDMS 認証を取得し、現在リコグループでは5拠点でCUDMS 認証を取得しています。



PICにおいて、CUDに配慮した部分



CUDMS認証書

【商品系】

商品への反映は、専門の商品企画部門が中心となり、CUD配慮設計を既存の仕組みに入れ込むことと周知徹底活動を行いました。

商品は、imaggio MP C3500/MP C2500 を皮切りに、リコーの事業の中心を成している画像ソリューション分野商品である複合機、プリンターや印刷機に順次展開し、CUD認証を取得し世の中に送り出しています。



改善例:複合機のSW



改善例:複合機の画面

以降、新たに発売される主力商品は、カラーユニバーサルデザインに配慮しています。

2010年1月には、業界初の新機能である「カラーユニバーサルデザイン対応印刷機能(*1)」を搭載した商品(imaggio MP C7501/MP C6001)を発売開始しました。

(*1) この機能は、プリント指示をする際に、プリンタドライバーでカラーユニバーサルデザイン対応印刷を選択すると、赤色がマゼンタが強く出た色、緑色が青緑色などのように、どなたにでも見やすい色味で出力されます。

<カラーユニバーサルデザイン対応印刷機能>

通常印刷の場合
一般/C型の見えかた
 ■全国品種別りんの生産量トップ6
 青魚 30%
 養蚕 21%
 養牛 13%
 山梨 9%
 福島 4%
 秋田 3%

色弱者の見えかたの一例
 ■全国品種別りんの生産量トップ6
 青魚 30%
 養蚕 21%
 養牛 13%
 山梨 9%
 福島 4%
 秋田 3%

CUD印刷モードの場合
一般/C型の見えかた
 ■全国品種別りんの生産量トップ6
 青魚 30%
 養蚕 21%
 養牛 13%
 山梨 9%
 福島 4%
 秋田 3%

色弱者の見えかたの一例
 ■全国品種別りんの生産量トップ6
 青魚 30%
 養蚕 21%
 養牛 13%
 山梨 9%
 福島 4%
 秋田 3%

プリンタードライバーの印刷品質タブで、「カラーユニバーサルデザイン対応印刷」にチェックを入れるだけ!

※色弱の方にとって見分けづらい色味を交換するので、色によって変化がない場合があります。また、本来のデータの色と出力結果の色が大きく異なる場合があります。
 ※全ての色弱の方にとって、効果が確認できるとは限りません。
 ※Microsoft Office 2007の使用を推奨します。

2009年9月に発売開始したデジタルカメラCX2機は、リコーのデジタルカメラとして初めてCUD認証を取得し、その後に発売された商品も引き続きCUD認証を取得しています。

私たちは、カラーユニバーサルデザイン活動を常に事業とつなげた活動としています。

7. 社内外からの評価

私たちのCUD活動により下記評価をいただいています。

<社内>

- ①今まで、社内の方針発表会の時に使われていた赤色レーザーポインターだと、指し示している場所が見えずに困っていた。このCUD活動により、CUD対応の緑色レーザーポインターを使用するようになってから、見やすくなり助かっている。
- ②今まで、資料作成で多くの色を使い過ぎていたことに気づいた。この活動により、すっきりとした資料作成に心がけるようになり、まわりからも、内容が以前よりも良く伝わるようになったと褒められた。



この活動は、伝えるべき情報（内容）を読み手に確実に伝え、今までのお困りごととも解決し、さらに当事者自らがそのことを他人に言える組織風土を作りだすことに繋がっています。

<社外>

①お客様の声

下記内容の声を多数頂いています。

- ・リコーが、自ら気づき、こんなことまで配慮する動きをかけていることを知り驚いた。
- ・リコーの活動をベンチマーキングしたい。
- ・ショールーム（PIC）におけるカラーユニバーサルデザインへの配慮をぜひ見たい。
- ・CUDの進め方をぜひ聞かせてほしい。

②自治体からの表彰受賞

リコーグループのCUD活動に対して、東京都と静岡県から各々評価をいただきました。

- ・東京都：第58回東京都社会福祉大会福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状（2010.1）
- ・静岡県：「第10回しずおかUD大賞 推進活動の部」大賞（2009.12）

③メディアからの関心の高まり

下記メディアに取り上げていただきました。

新聞（日刊工業新聞 等）、雑誌（日経デザイン誌 等）、テレビ（NHK BSデジタル）

8. 最後に

リコーグループは、今後も商品やコミュニケーションツールに対して積極的にカラーユニバーサルデザインに配慮し、一企業の立場からカラーユニバーサルデザインの重要性を社会全体に普及するように努めていく所存です。

カラーユニバーサルデザイン活動の推進に当たっては、色弱者の見えかたを体感できるツールの存在があったからこそ可能であったといっても過言ではありません。シミュレーションツール（色弱模擬フィルタやPCソフト 等）を開発し、有償・無償問わず提供くださっている多くの企業様に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

以上

Case study : 移動空間プロジェクト

「JR 静岡駅～新静岡駅周辺移動情報シームレス化研究」について

東急車輛製造株式会社 横川浩太



静岡県殿・静岡市殿・しずてつジャストライン殿との意見交換会での様子

移動空間プロジェクトは、情報の継ぎ目の無い移動空間の実現という目標に向けて取り組みを進めています。これまでの活動については、IAUD Newsletter 2009年12月号にてご紹介していますので、そちらも併せてご覧ください。

今回は、具体的案件として実施している「JR 静岡～新静岡駅周辺移動情報シームレス化研究」についてご紹介します。この研究は2009年から、静岡県殿・静岡市殿・静岡鉄道株式会社殿・しずてつジャストライン株式会社殿の協力をいただき推進しています。2012年に開業予定の新静岡センター周辺は現在再開発中ですが、これに合わせこの周辺地域の案内情報の調査～改善指針の提案を行うこと、を目的にしています。

そして、今回のニュースレターでは調査結果の概略報告をさせていただきます。詳細は2010年秋の国際ユニヴァーサルデザイン会議で行う予定です。

また、2010年3月31日には、これまで研究を進めてきた調査手法をIAUDのWEBサイト上に一般公開しましたので、ご意見など頂戴できましたら幸いです。

<http://www.iaud.net/udroom/archives/1003/25-000000.php>

1. 調査の概要

1-1 調査目的

2009年7月にはプレ調査を実施し、私たち自身も実際に現地を観察したことで当該地域の案内情報の問題点や事業者間にまたがる「シーム」を肌で感じました。今回は、被験者(モニター)に一般ユーザを招き、これまで研究・試行してきた調査手法を用いて客観的に問題点を浮き彫りにすることでJR 静岡駅北口～新静岡駅の再開発へのより良い改善提言に繋げることを目的としました。

1-2 調査日時・場所

日時:2009年11月13日(金)

午前の部 10:00~12:00

午後の部 13:00~15:00

経路:JR静岡駅北口~新静岡駅の往復

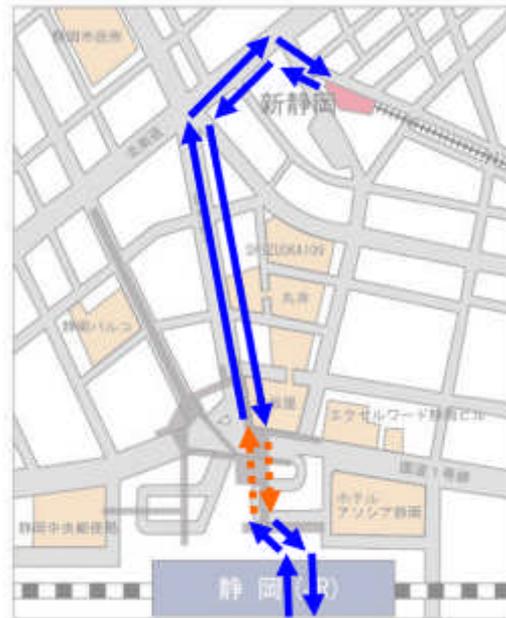
JR 静岡駅新幹線改札口

↓
駅前広場

↓
地下通路

↓
商店街

↓
新静岡駅改札



1-3 被験者(モニター)特性

モニター:16名(静岡県民・県外)

調査者:11名

年齢	男性	女性	計
75~	1	2	3
65~75	2	2	4
20~65	8	1	9
計	11	5	16

内男性2名は色弱者



1-4 調査方法

調査シートの項目にそって評価していただき、意見を聞く。

・被験者と観察者の2人1組で行う

・被験者の主観による評価

(調査シートの詳細は IAUD Newsletter 2009年12月号、または

<http://www.iaud.net/udroom/archives/1003/25-000000.php> をご覧ください。)

2. 調査結果

まず、調査時の新静岡駅周辺の状況について補足説明します。調査時は、新静岡駅に近接している新静岡センターが工事中で、新静岡駅周辺は仮囲いや仮設案内が設置されていました。今回の調査結果は、このような状況下での評価となっています。

2-1 調査結果(行き・帰り)

下表は新幹線改札口から新静岡駅までの行きの評価をまとめたものです。集計したところ、丸印箇所では高い評価が集まっており、逆に三角印の箇所においては評価が低い結果となっています。

IAUD移動空間プロジェクト調査マトリクス 静岡（行き） 集計数：15組

●調査日2009年11月13日 ●調査時間10:30～12:00 ●調査場所：静岡駅北口～新静岡駅 ●天候：曇り

●選択ルート ○A エレベーター ○B エスカレーター ○C 階段 ○D 自由（エレベーター+エスカレーター+階段）

案内情報種類選択 1.地上 2.案内塔 3.系下り 4.知り紙 5.案内板 6.柱 壁 7.その他

調査 番号	ロケーション	案内情報 種類	案内情報 の有無	案内 情報 の有無	案内の見つけやすさ										その他 (自由記述)									
					案内板	案内塔	案内柱	案内壁	案内紙	案内柱	案内壁	案内紙	案内柱	案内壁		案内紙								
1	JR静岡駅	駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	3	0	3
2		駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
3		駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
4		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
5		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
6		エレベーター前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
7	地下道	広場			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
8		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
9		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
10		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
11		出口			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
12		アーケード			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
13		駅構内と看板			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
14		地下道案内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
15		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
16	他、道	地下道	エレベーター前		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
17		JR静岡駅	駅構内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
18		地下道	連絡		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
19		JR静岡駅構内	連絡所案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
20		JR静岡駅構内	点字案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
21		新静岡センター広場	案内塔		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
22		地下道	方向案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
23		新静岡センター前	方向案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1

下表は、行き(JR 静岡駅→新静岡駅)における各項目の評価をまとめたものです。スタート地点の新幹線改札口では、案内の場所やデザインについては評価が高いのですが、目的地である「新静岡」という文言が無い為、検索性という項目においては低い評価となったと考えられます。その他、場所やデザインに問題がありそうな箇所、逆に場所・デザインともに高評価な箇所も見てとることができます。

■調査シートまとめ(行き)

IAUD移動空間プロジェクト調査マトリクス 静岡（行き） 集計数：15組

●調査日2009年11月13日 ●調査時間10:30～12:00 ●調査場所：静岡駅北口～新静岡駅 ●天候：曇り

●選択ルート ○A エレベーター ○B エスカレーター ○C 階段 ○D 自由（エレベーター+エスカレーター+階段）

案内情報種類選択 1.地上 2.案内塔 3.系下り 4.知り紙 5.案内板 6.柱 壁 7.その他

調査 番号	ロケーション	案内情報 種類	案内情報 の有無	案内 情報 の有無	案内の見つけやすさ										その他 (自由記述)									
					案内板	案内塔	案内柱	案内壁	案内紙	案内柱	案内壁	案内紙	案内柱	案内壁		案内紙								
1	JR静岡駅	駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	3	0	3
2		駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
3		駅構内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
4		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
5		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
6		エレベーター前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
7	地下道	広場			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
8		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
9		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
10		連絡			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
11		出口			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
12		アーケード			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
13		駅構内と看板			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
14		地下道案内			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
15		駅前			5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
16	他、道	地下道	エレベーター前		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
17		JR静岡駅	駅構内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
18		地下道	連絡		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
19		JR静岡駅構内	連絡所案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
20		JR静岡駅構内	点字案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
21		新静岡センター広場	案内塔		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
22		地下道	方向案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1
23		新静岡センター前	方向案内		5	5	3	2	2	7	5	1	2	3	3	3	2	0	0	1	0	1	0	1

場所・デザインGoodだが、目的地への案内なし

場所・デザインの問題

デザインの問題

場所・デザインともにGood

場所・デザインともにGood

場所・デザインの問題

場所・デザインともにGood

自由記述欄コメントは、調査時に被験者が気づいた点を吸い上げたものなので、ネガティブなコメントが多く集まる結果になりましたが、「バリアフリールートが親切で良い」「エレベータで地下に降りてすぐに案内があった」など、良い評価のコメントがありました。

次に、ネガティブコメントや調査者の気づきについて、代表的な例をご紹介します。

JR 静岡駅構内では、「改札出て構内に新静岡駅の案内が無い」「広い上、宣伝や看板などの情報が氾濫し出口があっているか不安」というコメントがありました（図1）。駅前ロータリー案内地図では、国道1号線を渡るために地下をくぐる必要がある事が書かれていないために、立ち止まってしまう人が多数出ました。地上から地下へ降りるエレベーター扉前では「このエレベーターに乗ったら対岸にいけるか？不安になる」というコメントがあり、「地下からエレベーターで地上に出た直後には方向感覚を見失うので案内板が欲しい」との意見があがりました（図2）。

図1

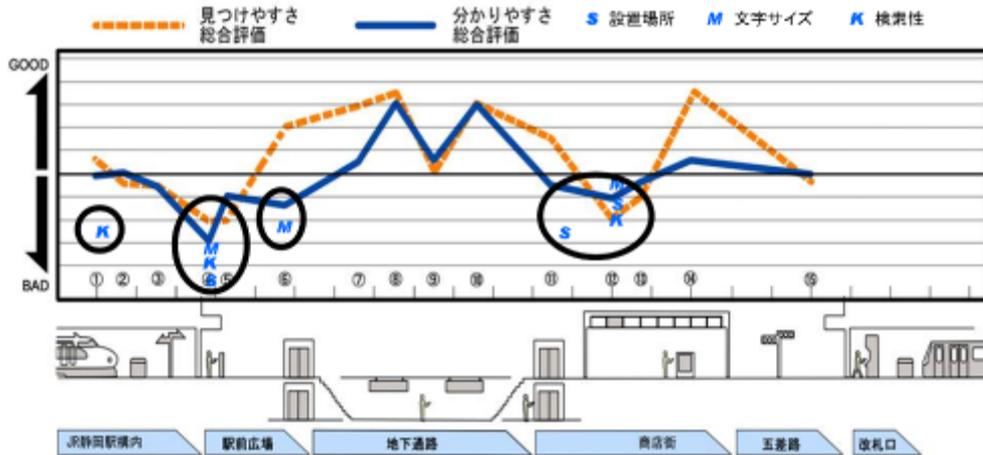


図2



調査のまとめの方法として調査ルートに沿って評価データをグラフ化しました(下図)。「見つけやすさ総合評価を破線オレンジ色」と「分かりやすさ総合評価を実線青色」としてそれぞれの数値をグラフ化したものです。加えて、アルファベットのS、M、K印はSが設置位置、Mが文字大きさ、Kが検索性の項目において点数が悪かった箇所を個別に表しています。

そして、丸囲みの数箇所では情報案内のシームの存在を確認することができました。



■ シーム分布MAP (行き)



以上から、主に①JR 駅構内で「新静岡駅」への案内表示が無い。②地下通路への誘導案内が駅前ロータリー案内図に無い。③エレベータに入る前・地下から地上へ出た直後の案内表示が必要。④商店街アーケードの案内表示に改善が必要 というシームを抽出することができました。

2-2 調査結果(カラーUD)

また、今回の調査では、色弱者(D型色覚・P型色覚)2名の方からの評価と一般色覚のプロジェクトメンバーによる色弱模擬フィルタ装着状態での評価も併せて行ないました。その結果、地図の現在位置表示の分かりやすさや見つけやすさについて、また時刻表や運賃表などの色使いについて配慮すべき点があることが分かりました。詳細は国際UD会議2010で報告します。



←元画像

↓シミュレーション画像



※使用したシミュレーションソフトについて
「Vischeck」 D型色覚相当（デフォルト値）
・必ずしも実際とは一致しない場合があります。

3. 静岡県殿・静岡市殿・しずてつジャストライン殿との意見交換

2010年4月に静岡県殿・静岡市殿・しずてつジャストライン殿と調査結果の報告を兼ねて、今後に向けての意見交換を行いました。その中では下記のようなコメントもあり、取り組みについて非常に前向きな雰囲気を感じました。

- ・全体の統一性を考えて面的に取り組む必要性を感じた。各事業者に統一性をもってもらうことが必要と感じた。
- ・静岡市自体が現在変革期であり、このタイミングにもっとUDを考えていきたい。
- ・駅前の広さに限りがあるため全ての路線が乗り入れできず、乗り場の分かりにくさが生じている。案内はこれからの課題と感じている。

4. まとめ

まず、検証箇所の改善アイデアを立案し、JR 駅構内・駅前商店街・新静岡センター関係者を交えての意見交換を行なう計画です。そして当該ルートの仮説の再調査に取り組んでいきたいと考えています。2010 国際 UD 会議では、それらの結果を具体的提言として報告する予定です。

世界の UD 動向

■ノルウェー・オスロでインクルーシブ・デザイン欧州ビジネス会議開催

ノルウェーデザイン委員会が主催するインクルーシブ・デザインをテーマにした会議「INNOVATION FOR ALL 2010」が5月20・21日の2日間、ノルウェー・オスロで開催されます。

インクルーシブ・デザインの考え方がいかにイノベーションの道具となり得るかに焦点をあて、世界の有識者や企業によりインクルーシブ・デザインの成功事例紹介やいかに利益を得られるかを明らかにします。会議では会員企業であるパナソニックさんのプレゼンテーションもあり、その中で IAUD および今年の国際 UD 会議の紹介をしていただく予定です。

インクルーシブ・デザインは良いデザインということだけではなく、良いビジネスということでもあり、世界で活躍する企業や専門家からの実践的なアドヴァイスやセッションを通してインクルーシブ・デザインへのインスピレーションが得られます。

INNOVATION FOR ALL 2010



●主な講演者

- ・ トロンド・ギスケ氏 (ノルウェー産業貿易大臣)
- ・ 阿部 亨氏 (パナソニックデザイン社)
- ・ サファク・パヴェイ氏 (ユナイテッド・ネーションズ)
- ・ ダン・フォモサ氏 (スマート・デザイン)
- ・ ジェレミー・メイヤーソン氏 (RCA ヘレン・ハムリン・センター)
- ・ ミカエル・ウォルフ氏 (ミカエル・ウォルフ・アンド・カンパニー)
- ・ カティンカ・フォンデルリーブ氏 (シンク) ほか

詳しくは以下の主催者サイトもご覧ください。

<http://www.norskdesign.no/innovation-for-all-2010/category8559.html>

【UD2010 ウォッチング】

●本論文の締め切り迫る、会議本番での発表に大きな期待！

本論文の提出締め切りが今月末に迫り、執筆の追い込みに入っている方も多いと思います。今回は特に海外からの応募が増加し、2006年を大きく上回っています。国際会議本番では充実した議論が期待されます。

<論文募集・審査スケジュール>

- 5月31日 本論文締め切り
- 6月1日～ 本論文査読
- 7月15日～ 査読結果通知・本論文修正依頼
- 8月31日 すべての原稿締め切り
- 10月30日～ 11月3日 国際会議にて発表

●理事会、実行委員会開催予定

- 6月1日(水) 2010年度第1回理事会
- 6月中旬(予定) 国際UD会議2010第8回実行委員会

【編集後記】○今年の母の日は5月の第2日曜日の9日でした。その数日前の新聞に、興味深い調査結果が掲載されていました。「母親になるのにベストな国ランキング」です。これは、国際NGO「セーブ・チルドレン・ジャパン (SGJ)」が毎年実施している調査で、今年で11回目のものです。世界160カ国を対象に、5歳未満の子供の死亡率・栄養不良率や初等教育就学率など7項目の「子供指標」、女性の平均余命や産休・育児制度など8項目の「女性指標」をそれぞれ数値化して、計15項目を総合化して「母親指数」としています。母親になるための環境が整っている国のランキングと言えるものです。日本は「子供指数」で世界6位でしたが「女性指数」が38位、総合化した「母親指数」で32位という結果に終わりました。1位はノルウェー、以下オーストラリア、アイスランド、スウェーデン、デンマークがベスト5です。女性に優しい社会づくりが重要のようです。

もう一つ面白い結果のアンケートもありました。母の日に関連し、日比谷花壇が実施した子供と母親への質問です。お母さんがもらってうれしいのは「気持ち・愛」で、始めてトップになりました。2位以下は家族と過ごす時間、お花、お花以外のプレゼントです。景気の影響からか、子供たちにお金を使わせまいとする母親の気持ちが現れているのではないのでしょうか。(矢)

○3週間ほど前、インド人の知人と26年ぶりに再会しました。私が所属する会社の親会社がハワイで運営するビジネススクールの同窓生です。当時のプログラム内容は日本以外の国からきた学生は日本語と日本のマネジメントを、日本からの学生は英語と欧米スタイルのマネジメントを学ぶという二つのコースがあり、東西の文化の違いやビジネススタイルを理解し、学ぶ場として地理的にもほぼ中間のハワイ・オアフ島に開校したものです。日本から参加した仲間数名と彼女の歓迎パーティーを、久しぶりの同窓会を兼ねて開きました。彼女とはコースが異なるのでメンバーのほとんどは当時はそれほど親しくもなかったのですが、やはり同じ場所で同じ時をすごした仲間として話に花が咲きました。入社3年目の私にとって、そこで過ごした約5カ月の日々は、さまざまな言葉や文化、人種の違いなどを越えて理解し合うという点で自分の中でとても貴重な体験となっています。インド人なのでてっきりベジタリアンだと思っていたら、牛肉でも生魚も何でもOKということで、逆の意味の驚きもあり、人は多様であると同時に時と共に変化するものであることを改めて認識しました。(薫)

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報をお寄せください。また、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.3 No.2
2010年5月10日発行
国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局 : 225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417
e-mail: info@iaud.net
情報交流センター: 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9
(IAUD サロン) トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847
e-mail: salon@iaud.net